

具体項目

書 写

観点	発行者 東京書籍	学校図書	三省堂	教育出版	光村図書
1 教育基本法の理念や第二期長崎県教育振興基本計画の趣旨・内容を踏まえ、豊かな人間性の育成を図る上での特長	(1) 教科「なつて」の特質を有している。教育が目指す「教育の目的」の育成に資する内容、目標の達成と達成の達成 ・1年「用具・用紙のできるまで」では墨や硯、和紙、筆の製法に触れ、2年「俳句や短歌を書くとき」でははんこの使用、3年「多様な文字」では石碑や看板、記録書やポスター等の多様な文字の使い分けを通して、我が国の伝統的な文化に理解が深まるよう配慮されている。 例示や手本に古典の作品や・俳句を取り上げて、豊かな情操を育成できるよう配慮されている。	・「書写の窓」の1年「九成宮醴泉銘」「蘭亭序」、3年「臨書を体験しよう」で我が国の文字文化の源流として、中国の書を取り上げ、他国の文化を尊重する態度を養うとともに、巻頭の「身の回りの書き文字を探そう」では、我が国の伝統的な文化に理解が深まるよう配慮されている。 手本として自然に関するものを多く取り上げ、同時に美しい日本の風景の写真を掲載することで豊かな情操を育成できるよう配慮されている。	・1年「書いて確かめよう」では、漢字から平仮名への変化に触れさせ、2年「書の名手たち」、資料編「文字の変遷」では甲骨文から派生する様々な書体を通して、他国の文化を尊重する態度を養うとともに、我が国の伝統的な文化に理解が深まるよう配慮されている。 ・例示や手本に道徳性の育成や自然・生命の尊重を目指したものを取り上げ、心豊かな人間の育成に資するよう配慮されている。	・1年「筆、墨、硯について知ろう」「文字は残る」「文字の変遷」、2年「あの人が残した文字」「日本の建築と『書』」、3年「多様な表現による文字」では、他国の文化を尊重する態度を養うとともに、我が国の伝統的な文化に理解が深まるよう配慮されている。 ・例示や手本に古典の作品や自然に関するものを取り上げ、心豊かな人間の育成に資するよう配慮されている。	・1年「文字の歴史を探る」、2年「季節のしおり」、3年「先人の文字に学ぶ」においては、文字の誕生から変遷について知識を得たり、古文を書いたりすることで、他国の文化を尊重する態度を養うとともに、我が国の伝統的な文化に理解が深まるよう配慮されている。 ・毛筆の手本に、自然をテーマにしたものを多く取り上げ、豊かな情操を育成できるよう配慮されている。
	(2) 郷土「長崎」の伝統文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が、自然にあり、豊かな人間性の育成を図る上での特長 ・1年「生活に広げよう」の「年賀状を書こう」における県名の行書例の中に、「長崎」という文字と本県のシンボルマークの記載がある。また、3年の「身の回りの文字を探そう」の中には、亀山社中と出島和蘭商館の石碑の文字が取り上げられている。	・本県に関する直接の記載はないが、1年書き初め題字「自主独立」、2年「紅葉林道」など、本県の豊かな自然や世界に開かれた歴史と関連付けて取り扱うことができる。	・本県に関する直接の記載はないが、2年書き初め題字に「平和の鐘」があり、長崎原爆や平和教育と関連付けて取り扱うことができる。	・「学習を生かして書く」の1年「年賀状を書く」で、県名の行書例の中に「長崎」という記載がある。2年「新聞を書く」の記事に横浜中華街があり、長崎にも中華街があることの記載がある。また新聞題字の紹介に「長崎新聞」が取り上げられている。	・資料編の「日常の書式」の「はがきの書き方」において、県名の行書例の中に、「長崎」という文字と本県のシンボルマークの記載がある。

具体項目

書 写

発行者 観点		東京書籍	学校図書	三省堂	教育出版	光村図書
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて確かな学力の育成を図る上での特長	(1) よ基礎的・基本的な知識・技能が確実に習得されるか	・学習の進め方については、導入部分に学習の一連の流れが示されており、教材本文にも提示することで、学習の流れを確認しやすいよう工夫されている。 毛筆の学習においては、朱・墨の濃淡で筆使いを示してあり、行書の動きのパターンとして「二・十・口・人」に見られる筆使いの基礎・基本を習得しやすいよう工夫されている。	・導入部分に書写学習の意義が示されており、自分の課題をつかんで学習を進められるよう工夫されている。 毛筆の学習においては、朱・墨の濃淡や白抜きで筆使いが示されており、筆使いの基礎を理解しやすいよう工夫されている。また、手本解説の中に言葉による説明が多くあり、基礎・基本を習得しやすいよう配慮されている。	・学習の進め方については、導入部分に学習の一連の流れが示されており、教材本文にも吹き出しの形で提示することで、学習の流れを確認しやすいよう工夫されている。 毛筆の学習においては、筆使いが朱墨の濃淡や青線・青点線（筆の動き）で示されており、筆使いの基礎を理解しやすいよう工夫されている。	・導入部分に学習の構図や進め方が示されており、学習の流れを理解しやすいよう工夫されている。 毛筆の学習においては、朱墨の濃淡や、筆の写真を用いて筆使いが示されており、筆使いの基礎を理解しやすいよう工夫されている。また、手本解説の中に言葉による説明が多くあり、基礎・基本を習得しやすいよう工夫されている。	・導入部分に「学習の流れ」が示されており、教材本文にも学習の進め方やポイント・留意点を示すことで、見通しをもった学習ができるよう工夫されている。 毛筆の学習においては、朱墨の濃淡や、運筆の写真を用いて筆使いが示されており、筆使いの基礎を理解しやすいよう工夫されている。
	(2) か。成力、知識・技能を必要とする課題を断るため、必要に応じて等しいが育考を	・各学年で単元「生活を豊かにする文字」を設定し、手紙・新聞・ポスター・レポートなど、目的や場面に応じた文字の使い分けをさせることで、思考力、判断力、表現力等を育成するよう工夫されている。	・教材ごとに、選択させる課題や理由・目的・印象等を問う課題を設定し、主体的な学習に取り組ませることで、思考力、判断力、表現力等を育成するよう工夫されている。	・各学年で「生活に生かそう」の単元を設定し、場面や目的に応じた書き方や書体を考えたり、身の回りの文字の使い方を工夫したりすることで、思考力、判断力、表現力等を育成するよう工夫されている。	・各学年で「学習を生かして書く」の単元を設定し、目的や必要に応じて効果的に伝える書き方を考えさせたり、書く速さを意識して課題を設定したりすることで、思考力、判断力、表現力等を育成するよう工夫されている。	・各教材において、ポイントの記入や「学習の窓（まとめ）」・「学習を振り返る」による学習内容の再確認を設定することで、思考力、判断力、表現力等を育成するよう工夫されている。
	(3) い身態主体的に付を養うよう、学習に工夫を取り入れ慣れ組む	・学習の進め方が、「目標」「調べよう」「確かめよう」「広げよう」「振り返ろう」と明確に示されており、学習内容や達成度を学習者が確認しながら、主体的に学習できるよう工夫されている。	・教材が単元で構成され、毛筆教材ごとに「手本」「手本の解説」「硬筆で書いてみよう」が示されており、学年末には「確かめよう」を設定することで、主体的な学習ができるように、教材の配列が工夫されている。	・学習の流れが、「考えよう・話し合おう」「書いて確かめよう」「振り返ろう」「学習のまとめ」「生活に生かそう」と明示されており、学習者同士の交流を通して、主体的な学習ができるよう工夫されている。	・学習の進め方が「目標」（試し書き：硬筆）「考えよう」「生かそう」（まとめ書き：硬筆）「振り返ろう」と明示されており、学習活動を通して、学習者が到達度を確認し、主体的な学習ができるよう工夫されている。	・学習の流れが「目標」、「学習の窓（文字の特徴や書き方のヒントを活用する）」、「学習を振り返る」と明示されており、学習活動を通して、学習者が到達度を確認し、主体的な学習ができるよう工夫されている。

具体項目

書 写

観 点	発行者 東京書籍	学校図書	三省堂	教育出版	光村図書
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて確かな学力の育成を図る上での特長	(4) 夫が社会生活や言葉活動に生かされるよう工夫されている。 ・年賀状、手紙、封筒、往復はがき、原稿用紙、はんこ、掲示物、ファックス、看板・ポスター、のし袋、レポート、ノートなど様々な教材を示したり、好きな言葉や目標とする言葉を順を追って作品にする活動を設定したりすることにより、多様な文字に応じて効果的に書く力を身に付け、社会生活や言語活動に生かされるよう工夫されている。	・ポスター、新聞、色紙、手紙、封筒、はがき、伝票、のし袋、原稿用紙、掲示物、短冊、はんこなど様々な教材を示したり、「発展」において古典作品を鑑賞したり、臨書や篆刻の体験したりする活動を設定することにより、多様な文字に応じて効果的に書く力を身に付け、社会生活や言語活動に生かされるよう工夫されている。	・掲示物、年賀状、ポップ、ワークシート、手紙、封筒、色紙、ちらし、ポスター、賞状、プログラム、短冊、案内状、伝票、願書、のし袋、ノート、原稿用紙など様々な教材を示すことにより、多様な文字に応じて効果的に書く力を身に付け、社会生活や言語活動に生かされるよう工夫されている。	・カード、原稿用紙、レポート、手紙、封筒、掲示物、新聞、短冊、旗、うちわ、カレンダー、印など様々な教材を示すことにより、多様な文字に応じて効果的に書く力を身に付け、社会生活や言語活動に生かされるよう工夫されている。また、巻末に「書式の教室」が配置され、全学年を通して参考にできるよう工夫されている。	・巻末に「資料」を配置し、ポスター、印、手紙、封筒、はがき、送り状、願書、のし袋、原稿用紙、レポート、新聞、リーフレット、フリップ、帯、しおり、ポップ、旗など様々な教材を示すことにより、多様な文字に応じて効果的に書く力を身に付け、社会生活や言語活動に生かされるよう工夫されている。
	(5) 毛筆の指導は、硬筆の能力の基礎となる。 ・楷書、行書の学習において、いずれも毛筆の学習のあとに「まとめ」として硬筆での練習（硬筆練習枠・欄あり）を配置した構成となっており、毛筆の学習によって、硬筆では気付きにくい文字の書き方を身に付け、硬筆書写に役立てることができるよう工夫されている。	・楷書、行書の学習において、いずれも毛筆での学習のあとに「硬筆で書いてみよう」（硬筆練習枠・欄あり）を配置した構成となっており、毛筆で書き方の要点に気付かせることで、硬筆への意識付けや、基本的な技能習得ができるよう工夫されている。	・楷書、行書の学習において、いずれも毛筆と硬筆を使った学習のあとに、硬筆での「学習のまとめ」（硬筆練習枠・欄あり）を配置する構成となっており、硬筆への意識付けや、基本的な技能習得ができるよう工夫されている。	・楷書、行書の学習において、いずれも最初に試し書きを行い、課題を意識して毛筆練習を行ったのち、硬筆での「学習を生かして書く」を配置する構成となっており、硬筆への意識付けや、基本的な技能習得ができるよう工夫されている。	・楷書、行書の学習において、いずれも毛筆の手本の中に「なぞろう」「学習したことを生かして書こう」（硬筆練習枠・なぞり書き）を設定するなど、硬筆での「まとめ」を配置する構成となっており、硬筆への意識付けや基本的な技能習得ができるよう工夫されている。
	(6) 硬筆と毛筆の分量は、適切に配慮されている。 ・1年と2年においては、毛筆と硬筆の本文における割合が、硬筆にやや重きを置いた配分・分量となっている。3年においては、多様な文字文化について適切に取り上げられている。	・1年と2年においては、毛筆と硬筆の本文における割合が、毛筆にやや重きを置いた配分・分量となっている。3年においては、多様な文字文化について適切に取り上げられている。	・1年と2年においては、毛筆と硬筆の本文における割合が、ほぼ均等な配分・分量となっている。3年においては、多様な文字文化について適切に取り上げられている。	・1年と2年においては、毛筆と硬筆の本文における割合が、ほぼ均等な配分・分量となっている。3年においては、多様な文字文化について取り上げつつ、やや毛筆に重きを置いた配分・分量となっている。	・1年と2年においては、毛筆と硬筆の本文における割合が、毛筆に重きを置いた配分・分量となっている。3年においても、多様な文字文化について取り上げつつ、やや毛筆に重きを置いた配分・分量となっている。

具体項目

書 写

発行者 観点		東京書籍	学校図書	三省堂	教育出版	光村図書
3 学習効果や使いやすさ、見やすさ等、ユニバーサルデザインの視点からの表記・表現や体裁の特長	(1) 本文内容は、分かりやすく、質・量ともに豊かな記述内容となっているか。	- 文章表現は、主に常体の表現であり、「目標」や「学習のポイント」が短い言葉で箇条書きにまとめられ、多様な文字色、文字サイズ等の工夫も見られる。 - 単元末の「生活に広げよう」「しょしゃのたね」、巻末の「資料」で、教材との関連事項等を、実際の文書や事物の写真等を用いて多く示しながら、具体的な説明や解説を入れるという構成になっている。	- 文章表現は、主に常体であり、学習活動への誘いとしての「……しよう」の簡潔な表現が多い。文字は基本的にゴシック体で、文字サイズも大きく見やすい。 - 単元末の「書写の窓」で、教材との関連事項や、書くことに関する習慣等を、実際の文書や事物の写真等を多く用いて示し、そこに具体的な説明や解説を入れるという構成になっている。	- 文章表現は、主に敬体で、学習活動への誘いとしての「なぜでしょうか」「……ましよう」の簡潔な表現が多い。多様な文字フォント、文字サイズ等の工夫も見られる。 - 巻末の資料編では、教材との関連事項や、実際の文書や事物の写真等を多く示し、そこに具体的な説明やポイントを入れるという構成となっている。	- 文章表現は、主に常体で、学習活動への誘いとしての「……よう」の簡潔な表現が多い。多様な文字フォント、文字サイズ等の工夫も見られる。 - 巻末の「書式の教室」では、書くことに関する習慣等を、実際の文書や事物の写真等を多く示し、それぞれに短い説明やポイントを入れるという構成となっている。	- 文章表現は、主に常体であり、学習活動への誘いとしての「……よう」の簡潔な表現が多い。文字は基本的にゴシック体で太字になっており見やすい。 - 単元末の「コラム」や巻末の「資料編」では、書くことに関する実際の文書や事物の写真等を多く示し、そこに具体的な説明やポイントを入れるという構成となっている。
	(2) 写真や学習効果に十分に配慮されているか。写真、挿絵、図表などは、学習内容との関連が深い。	巻頭の「日本の用具の発達と文字の変化」や教材間の「しょしゃのたね」、巻末の「資料」では、写真をふんだんに掲載することで親しみやすくなっている。また、学習のポイントをキャラクターのセリフとして提示するなど、学習意欲や学習効果が高まるよう配慮されている。	巻頭の「身の回りの書き文字を探そう」や単元末の「書写の窓」では、写真をふんだんに掲載することで親しみやすくなっている。各単元の扉には、美しく大きな写真と導入手本とを組み合わせ、言葉のイメージを膨らませたり、半紙原寸大の手本を多く取り入れたりすることで、学習意欲や学習効果が高まるよう配慮されている。	各学年の終わりに配置されている単元「生活に生かそう」や巻末の「資料編」では、写真をふんだんに掲載することで親しみやすくなっている。また、「学習のヒント」をキャラクターのセリフとして提示するなどして、学習意欲や学習効果が高まるよう配慮されている。	巻頭の見開き2ページは「目的に合わせて書こう」というテーマについてイラストや写真を用いて説明することで書くことに親しみやすくなっている。また、実際の事物や作品、中学生の写真などをふんだんに掲載することで、学習意欲や学習効果が高まるよう配慮されている。	単元末に配置されている「コラム」や3年の「発展」、巻末の「資料」では、事物や作品の写真をふんだんに掲載することで親しみやすくなっている。また、学習内容にかかわる人物や動物のイラストを多くのページに用いることによって、学習意欲や学習効果が高まるよう配慮されている。
	(3) レイアウトや色遣、文字の配置等に配慮されているか。	教科書の横幅をB5より2センチ広げることで、毛筆の手本の横に「書くときのポイント」を配置し、学習効果が高まるよう配慮されている。	毛筆の学習においては、2ページ見開きで書かれた手本を多く用いることで、文字が半紙と同じ配置になり、学習効果が高まるよう配慮されている。	単元名や目当ては丸ゴシック体太字、「考えよう・話し合おう」の問かけ文は教科書体、その他はゴシック体で表記することで、読みやすいよう配慮されている。	各学年と「書式の教室」の端をインデックスのように色付けすることで、一目で分かるようにし、速やかに学習に取り組めるよう配慮されている。	各学年のページの右端の色を使い分けるとともに、巻末の「資料」部分をインデックスのように色付けすることで、必要とする内容のページを開きやすくするよう配慮されている。